

20851007(26期) 菊永 泰正

最近20年での中国の変化

- 1. 携帯電話: 1万→5.2億
(普及40%、日本の5.2倍)

‘07米国関心事

- 1)イラク戦争
- 2)中国の台頭

- 2. 新車販売: 幹部→870万台
(普及4%で日本の1.5倍)
- 3. 株式市場: 開始→4.2兆\$
(東京に次ぐ4番目の市場)

プラス面

- 世界を牽引するエンジン(00→05寄与)
- ✓鉄鉱石輸送(世界の増加の2/3)
- ✓銅の需要(世界の増加の100%超)

マイナス面

- 素材・エネルギーの国際価格高騰
- ✓鉄・銅・石油(価格が5年で5倍以上)
- 環境破壊の進行
- ✓成長の犠牲(大気汚染での酸性雨)

格差問題

3つの格差問題の解消

- ✓貧富格差(生活費>\$1/日が1億以上)
- ✓都市と農村(所得差3.5倍/実質6倍)
- ✓沿岸と内陸(10倍以上/日本は約2倍)

民族問題

国家崩壊型の沈没回避

- ✓チベット独立問題に端を発する、旧ソ連型の国家崩壊リスク

世界への影響

中国の課題

中国の衝撃

日本との関係

バブル崩壊回避
政治リスク回避

中国の戦略

チャンス

- 環境・省エネ(中国の省エネ型への転換)
- 都市化需要(年2千万の都市人口増)
- 中間・富裕層拡大(年収百万超が1億)

リスク

- 格差や腐敗蔓延での社会不安
- 生産過剰や人民元切上げ等

貿易の米中逆転
市場と労働力

日本の戦略

北欧型「社会民主主義」
国家へのソフトランディング

企業戦略→「揚長避短」
外交戦略→「親米睦中」

中国の台頭と世界の潮流

シン サヒン
(沈 才彬)

(現代世界解析講座第4回2008年5月15日)

中国の台頭

経済成長
・携帯電話
1989(1万台)
2000予測(80万台)、
実績(8千万台)
2007予測(5億2千万台)
普及率:40%
(台数:日本の5.2倍)

・自動車
2007新車販売実績(870万台)
普及率:4~5%
(日本:340万台)

・株式市場成長
2007(4兆2千億ドルで世界4位)
(1番目:米ニューヨーク、
2番目:英ロンドン、
3番目:日本東京)

プラスの側面

マイナスの側面

世界経済を牽引

- ・鉄鉱石海上輸送量増加(2000→2005)
世界:3億トン、中国:2億トン(全体の2/3)
- ・粗鋼需要増加は中国が全体の6割
- ・アルミニウムは中国が全体の5割
- ・銅の需要増加
世界:163万トン、中国:167万トン
(中国を除く、世界の需要は減少)

環境問題

- ・素材、エネルギーの国際価額の高騰(2000→2005)
(鉄鋼石、銅、石油価額は5倍増)
- ・環境破壊
化学品の汚水排出により水の汚染
大気汚染による酸性雨

内部問題

民族問題 格差問題

- ・漢民族
- ・新疆ウイグル自治区問題
- ・内モンゴル問題
- ・チベットの問題
- ・台湾の問題
- ・貧困層と富裕層
- ・都市部と農村部
- ・沿海部と内陸部

中国の経済展望

経済大国に浮上
2013年政権交代により世界2位の経済大国になる

環境対策
・エネルギー爆食型より省エネ型に転換
貧困層から富裕層の増加、農村部より都市部人口増加により需要の拡大
・車、家電機器、住宅、建設
・ブランド品

懸念事項
国家崩壊型により経済沈没
・チベットの問題
・新疆ウイグル自治区問題
・内モンゴル問題
・台湾の問題

回避

民主化政治体制国家へ軟着陸

展望

2007アメリカの関心事

- ・脱9・11時代
(イラク戦争の理由:①大量破壊兵器の存在 ②フセイン政権と国際テロ組織アルカイダとのつながり)
- ・中国の台頭

過去40年間の世界経済沈没の分類

- ①政治闘争
- ②エネルギー危機
- ③戦争の長期化
- ④腐敗蔓延、失業問題、格差問題
- ⑤民主化運動
- ⑥バブル崩壊
- ⑦国家崩壊型
- ⑧金融危機
- ⑨ITバブル崩壊

日本のビジネスチャンス

- ・技術力
 - ①デザイン、省エネ: 車、家電機器、住宅、建設
- ・ブランド力
 - ①お米: コシヒカリ、ひとめぼれ